宮崎国際大学教育学部紀要『教育科学論集』第 12 号（2025）76-84 頁

内部質保証の実質化のための効果的な学生アンケート調査
—6 年間の IR センター活動実績—

渡邉 裕*　保田 昌秀**

要約

認証評価制度の第 4 期（2025～）では、内部質保証の実質化が重点項目となっている。内部質保証とは、「PDCA サイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス」であり、大学は、内部質保証において教育が適切な水準にあることを説明するために、IR（大学情報分析）を行っている。

宮崎国際大学では、IR センターを 2019 年に設置し、教務部および入試広報部が保管しているデータを活用した分析および報告を継続的に行っている。また、多くの学生アンケート調査を実施し、内部質保証のエビデンスとしている。

本論文では、本学の IR センターで 2019 年度からの 6 年間で実施した「学生アンケート」を分析し、その改善と内部質保証の実質化について検討した。その結果、本学の授業評価アンケートの 5 年間の平均回答率は 79.1%であり、全国の大学の平均回答率よりも高い水準を保っている。また、設問の見直しを授業評価アンケートおよび学習・生活実態調査で行った。これらの種々の調査分析結果および学生アンケート調査は、内部質保証のエビデンスだけでなく、私立大学等改革総合支援事業等の根拠資料として活用されている。

キーワード：授業評価アンケート、回答率、学生の自己評価、私立大学等改革総合支援事業

1. はじめに

平成 16（2004）年度に認証評価制度が始まり、全ての大学、短期大学、高等専門学校は、7 年以内ごとに文部科学大臣が認証する評価機関の評価を受けることが義務付けられた。この間、審査対象の重点が、第 1 期（2004～2010）では自己点検評価、第 2 期（2011～2017）では内部質保証（システム）の構築、第 3 期（2018～2024）では内部質保証の運用、第 4 期（2025～）では内部質保証の実質化へと変遷してきている。大学評価ハンドブック（2023 年 11 月改訂）（大学基準協会 2023）によると、「内部質保証とは、PDCA サイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセス」となっている。本学は令和 11（2029）年度に大学機関別認証評価を受審する予定である。

大学は、内部質保証において教育が適切な水準にあることを説明するために、IR（Institutional Research 大学情報分析）を行っている。本学では、2019 年度に IR センターを設置し、教務部および入試広報部が保管しているデータを活用した分析および報告を継続的に行っている。また、学生アンケート調査は、内

* 宮崎国際大学教育学部・IR センター
** 宮崎国際大学 IR センター

部質保証において重要な位置を占めている。

2. 目的

内部質保証のなかで、授業評価アンケート（Course Evaluation）は重要な調査である。橋本（2015）は、授業評価アンケートは、教育改善サイクルの起点と位置づけられるが、十分に活用されていないと述べている。教員間、学生・教員間で教育改善に生かすという趣旨に理解が進んでないことを挙げている。また、もう一つの課題として、低い回答率がある。他大学のホームページで公開されている 2023～2024 年度に実施された代表的な全国 40 大学の授業評価アンケート回答率を付録 1 に示す。この分布を見ると平均値が 46.3%（後述）となっている。ほとんどの授業評価アンケートは、半分の学生の意見が反映されていないアンケートとなっており、内部質保証の実質化に課題を残している。さらに、授業評価アンケートでは、最近では、教員の教授方法に対する学生の評価だけでなく、学生自身の授業に対する自己評価も必要になってきている。

そこで、本論文では、本学が IR センターで 2019 年度からの 6 年間で実施した「学生アンケート」について調査を行い、その改善と内部質保証の実質化について検討したので報告する。

3. 学生アンケート調査

表 1 に、2019 年度から本学で行った学生アンケート（授業評価アンケート、学習・生活実態調査、卒業時満足度調査）の回答率（＝回答件数／調査対象件数）を示す。また、表 2 には、学外者を対象として実施する「卒業生及び就職先へのアンケート調査」の回答率を示す。本学の授業評価アンケートは 2020 年度から学習管理システム（LMS）であるユニバーサル・パスポートで実施している。4 段階の評点での回答する 18 の設問と 3 つの自由記述からなっている。また、その他の学生アンケート調査には、Google Forms（脚注1）を 2019 年から活用している。これらの WEB システムの活用によって、紙媒体やマークシートに比べて格段に集計作業が簡便になった。

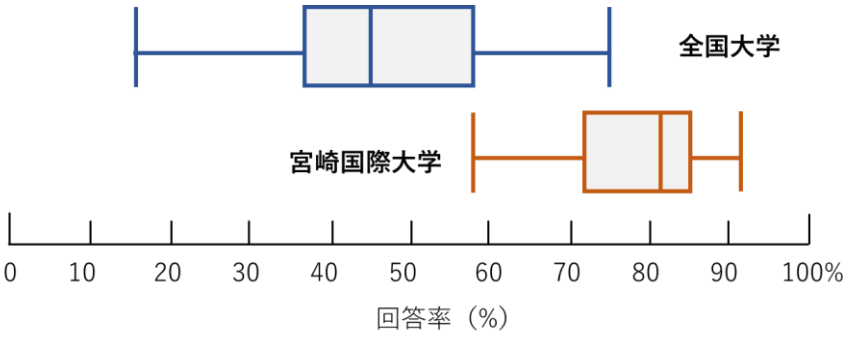

図 1 全国 40 大学と本学の授業評価アンケート回答率の箱ヒゲ図による比較

学生アンケート調査によって学生全体の意見を把握するためには、回答率が重要である。付録 1 に示した全国 40 大学と本学（表 1）の授業評価アンケートの回答率（%）の分布を箱ヒゲ図（図 1）で比較する。全国 40 大学では，最小値 16%、第 1 四分位数 37%、中央値 44%、第 3 四分位数 58%、最大値 75%、平均

[1] Google 社が，2014 年 10 月にアンケート機能を持つソフトとして Google Forms を開発し、2015 年にリリースした。

値は 46.3%±15.5%となる。本学の分布は最小値 58%、第 1 四分位数 72%、中央値 81%、第 3 四分位数 85%、最大値 92%、平均値 79.1%±9.7%である。本学の授業評価アンケートの回答率は、全国大学に比べて 30 ポイント以上高くなっている。

表 1　学生アンケート（授業評価アンケート・学習・生活実態調査・卒業時満足度調査）の回答率

アンケート（実施時期）	年度		回答率（%） 国際教養学部	回答率（%） 教育学部	設問数
授業評価アンケート（前期：7 月第 3 週 後期：1 月第 3 週）	2020 年度	後期	92%	92%	21 問
	2021 年度	前期	81%	91%	21 問
		後期	73%	89%	21 問
	2022 年度	前期	83%	86%	21 問
		後期	69%	83%	21 問
	2023 年度	前期	71%	82%	21 問
		後期	58%	80%	21 問
	2024 年度	前期	68%	81%	21 問
		後期	63%	81%	21 問
	平均値		**73%**	**85%**	
学習・生活実態調査（1 月～2 月上旬）	2019 年度		50%	79%	20 問
	2020 年度		66%	84%	20 問
	2021 年度		45%	66%	20 問
	2022 年度		52%	52%	20 問
	2023 年度		32%	61%	21 問
	2024 年度		34%	62%	21 問
	平均値		**47%**	**67%**	
卒業時満足度調査（2 月～3 月上旬）	2019 年度		100%	94%	6 問
	2020 年度		82%	92%	6 問
	2021 年度		88%	100%	6 問
	2022 年度		78%	100%	6 問
	2023 年度		90%	88%	7 問
	2024 年度		78%	94%	7 問
	平均値		**86%**	**95%**	

表 2　卒業生及び就職先へのアンケート調査の回答率 1)

年度	回答率（%） 国際教養学部 卒業生	国際教養学部 就職先	教育学部 卒業生	教育学部 就職先
2019 年度	48%	49%	28%	67%
2020 年度	19%	44%	37%	53%
2021 年度	29%	43%	49%	46%
2022 年度	19%	52%	45%	50%
2023 年度	32%	57%	46%	82%
2024 年度	31%	39%	60%	70%
平均値	30%	47%	44%	61%

1)　設問数：国際教養学部 5 問，教育学部 8 問
　　実施時期：9 月～10 月

本学の授業評価アンケートでの回答率の高い要因として、小規模大学（入学定員 150 人）であるために学生への周知が容易なことに加えて、授業評価アンケートの回答率を上げるために次の対策を取っていることが挙げられる。

1)　**設問数**：授業評価アンケートはセメスター（学期）ごとに実施され、学生はすべての受講科目に対して 21 問の授業評価を行う。学期ごとに受講できる科目数の上限が、本学では 11 科目（国際教養学部）

または 12 科目（教育学部）であり、学生は学期ごとに最大で 252 問（＝21 問×12 科目）の質問に回答することになる。一つの設問の回答に 10 秒を要した場合、12 科目の授業評価アンケートには 42 分（＝2520 秒）を要し、大きな負担となる。そのために、回答率の低下が危惧される。定期的に実施する授業評価アンケートは、設問数は 20 問程度として、回答時間が長くならないように配慮する。

2) **設問内容**： 授業評価アンケートは従来、教員の教授方法に対する学生の評価が実施されているが、最近，学生自身の授業に対する態度の自己評価の設問も取り入れるようになってきた。例えば、東京聖栄大学（2024）のアンケートには「学生自身の授業に対する姿勢」の設問が 4 問含まれている。そこで、本学も 2025 年度に設問の見直しを行った（付録 2）。付録 2 の下線部が 2025 年度に変更した設問である。評点で評価する設問（18 問）は「あなたの受講態度」「授業内容」「授業の進め方」「担当教員」「授業の達成状況」に分類される。このように、内部質保証に効果的な内容とすることが重要である。

3) **配信時期**： 本学では，授業評価アンケートの案内を授業が 14 回目になる週に行い、教員が学生に対してアンケートの回答を促すことができるようにしている。

4) **回答期間**：案内が到着後、直ちに回答できるようにし，本学の学生アンケートの回答期間は概ね 3 週間としている。回答者が少ない場合は、督促のメールを学生へ配信している。

他大学の授業評価アンケートも、3 週間（例、大阪成蹊大学 2024 年 7 月 2 日（火）～7 月 22 日（月））が多いようだ。本学の授業評価アンケートでは、3 週間には夏休みや春休みが含まれるために、複数回の督促が必要である。

5) **回答率**：学生全体の意見を把握するためには、50%以上の回答率を目指すべきと考える。本学の授業評価アンケートの 5 年間の平均回答率は前述のように 79.1%で高い水準を保っている。アンケートの回答率の向上には WEB 化も貢献している。堀内（2023）は授業評価アンケート調査の WEB 化は回答率の向上になることを報告している。また、石井（2019）は WEB 化によって記述回答が飛躍的に増えることを報告している。

文部科学省の「教育の質に係る客観的指標調査票」において、卒業時満足度調査では回答率 85%以上になることを推奨しており、文部科学省もアンケートの回答率に注目していることが分かる。そこで、本学の卒業時満足度調査は、卒業判定会議で卒業が決まった学生に対して直ちに配信し、卒業式の前日のオリエンテーションで再度の回答依頼を行って、回答率の向上に努めている。

4. 内部質保証の充実

本学 IR センターが行っている調査分析項目の一覧を表 3 に示す。IR センターは、アンケート調査の他に、教務部および入試広報部が保管しているデータを活用して、「アドミッション・ポリシー達成度の検証」「退学者・除籍者数」「ストレート卒業率」「留学前後の TOEIC 成績の比較」「退学者の現状把握・原因分析・対策」「TOEIC 成績の推移」「開講科目の成績分布（成績評価の平準化）」「GPA 分析（1 年生～4 年生）」などの報告書を作成し、部局長会議等で情報共有して、組織的な内部質保証に取り組んでいる。

また、アンケート調査では、「授業評価アンケート」「学習・生活実態調査」および「卒業時満足度調査」「卒業生及び就職先へのアンケート調査」「過年度卒業生アンケート調査」は、それぞれカリキュラム・ポリシーおよびディプロマ・ポリシーの PDCA サイクルのエビデンスになっている。

表 3　IR センターの所掌事項と活用

分類	調査・分析項目	内部質保証 1)	各種申請 2)
基本情報	入学者・卒業者数		K⑤-1
	退学者・除籍者数		
	海外研修者（留学）数		K⑤-1
学修成果	GPA 分析（1 年生～4 年生）	CP	K②
	国際教養学部 4 年生の TOEIC 成績の推移	CP	K⑤-2, K⑭
	開講科目の成績分布（成績評価の平準化）	CP	T⑦
	留学前後の TOEIC 成績比較	CP	
	数理データサイエンス AI プログラム報告書	CP	T⑫
アンケート調査	授業評価アンケート	CP	K⑤-1, K⑬
	授業外学修時間の調査	CP	K⑤-1
	卒業生及び就職先へのアンケート調査	DP	K⑤-1, K⑬
	学習・生活実態調査	CP	K⑬
	卒業時満足度調査	DP	K⑬, T③
	過年度卒業生アンケート調査	DP	K⑯
評価テスト	クリティカル・シンキング・テスト	DP	
	BEVI テスト（2023 年度まで）		
調査・分析	アドミッション・ポリシー達成度評価	AP	K②
	退学者の現状把握・原因分析・対策		S1
	自己点検評価書（各年度）		T①
	入学選抜の妥当性（ストレート卒業率）		T㉒
	クロス SWOT 分析		S1

1）内部質保証における三ポリシーの PDCA：AP=アドミッション・ポリシー、CP=カリキュラム・ポリシー、DP=ディプロマ・ポリシー

2）各種申請の根拠資料

S1: 私立大学等経営強化集中支援事業

教育の質に係る客観的指標

K②：②３つのポリシーを踏まえた取組の点検・評価

K⑤-1：⑤-1 情報の公表 ア 学修時間又は学修実態（例：学修時間、留学率等）、イ 授業評価結果、ウ 学修成果（例 学位取得状況）

K⑤-2：⑤-2 情報の公表 ア卒業生の資格取得又は進路等に係る実績

K⑬：⑬学生の学修実態等の把握

K⑭：⑭学生の学修成果の把握

K⑯：⑯卒業生のキャリア（就職・進学等）の状況の把握と教育活動等の改善

私立大学等改革総合支援事業 タイプ１

T①：①全学的な教学マネジメント体制の構築

T③：③卒業時アンケート調査の実施・公表および活用

T⑦：⑦ＧＰＡ制度の導入及び活用

T⑫：⑫学修歴証明のデジタル化

T㉒：㉒入学者選抜の妥当性の検証

注）番号は、令和７年度申請による。

5. 私立大学等改革総合支援事業

文部科学省 私立大学等改革総合支援事業は、大学力の向上のために，組織的・体系的な大学改革に取り組む私立大学等を一定数選定し、私立大学等経常費補助金、施設整備費、設備整備費を一体として重点的に支援して，大学等の財政基盤の充実を図る事業である（佐藤 2014）。事業概要を下記に示す。同事業には４つのタイプの申請があり，本学では主に，タイプ１「『Society5.0』の実現等に向けた特色ある教育の展開」へ申請を毎年行っている。

私立大学等改革総合支援事業タイプ 1 の申請に必要な根拠資料を**表 3** に示す。また、私立大学等改革総合支援事業に当たっては、別に申請を行う「教育の質に係る客観的指標調査票」の 16 の設問のどれかについて、0 点で回答した場合は、「私立大学等改革総合支援事業」の申請資格を失うことになっている。「教育の質に係る客観的指標調査票」に関係する根拠資料も**表 3** に示す。これら二つの申請においても、多くのアンケート調査が求められる。

文部科学省が主導する「全国学生調査」が 2019 年度からの 4 回の試行を経て、2025 年度から本格実施されることになった。この調査は、選択式 33 問・自由記述式 1 問からなり、関連する「教育の質に係る客観的指標調査票 ⑬学生の学修実態等の把握」において、各大学が「全国学生調査」を活用するように求められている。本学も 2025 年度から「全国学生調査」を活用することを決定した。これに伴い、本学の「学習・生活実態調査」の設問の改訂を行った。

私立大学等改革総合支援事業
【事業概要】未来を支える人材を育む特色ある教育研究の推進や高度研究を実現する体制・環境の構築、地域社会への貢献、社会課題を解決する研究開発・社会実装推進など、自らの特色・強みや役割の明確化・伸長に向けた改革に全学的・組織的に取り組む大学等を重点的に支援する。（文部科学省ホームページより）

6. まとめ

学生アンケート調査は、内部質保証において重要な位置を占めている。学生全体の意見を収集するためには、回答率の向上が不可欠である。また、内部質保証の重点項目の推移、オンライン授業などの教育方法の変遷によって、アンケート内容の不断の見直しも不可欠である。大学経営が厳しくなる中、今後は、大学 IR は単なるデータの提示だけでなく、大学経営に資する“主張や提案”のある解析が必要であると思われる。例として、2024 年度前期授業評価アンケートの中で、授業当たりの受講者数が 10 人以下のクラスが国際教養学部で 46 授業（38%）あることを示し、クラスサイズが 20 人程度の少人数教育を行っている本学であっても、改善が必要なことを主張した。

謝辞

学生アンケート調査の配信、教務データの提示に協力を頂いた教務部の皆様に感謝いたします。

付録 1　ホームページで公開されている全国大学（40 大学）の授業評価アンケートの回答率

大学名（年度）	回答率
弘前大学（2024）	教養教育科目　前期 75.0%、後期 59.6%
千葉商科大学（2024）	全科目春期 37.9%
学習院大学（2024）	全科目全学期 41.8%
城西大学（2024）	秋期 34.1%
大東文化大学（2024）	全科目前期 62.8%
共立女子大学（2024）	前期 58.8%
富山大学（2024）	教養教育前期 58%
山梨学院大学（2024）	全科目後期 49.4%
岐阜共立大学（2024）	前期 59.7%（スポーツ経営学科）
大谷大学（2024）	全科目後期 44.3%
京都精華大学（2024）	全科目第 1 クォーター37.48%
関西国際大学（2024）	全科目秋期 46%
神戸女学院大学（2024）	全科目後期 36%
徳島大学（2024）	教養科目群　全期 36.68%、　基礎科目群　全期 39.31%
久留米大学（2024）	全科目前期 37.8%（文学部）
東北大学（2023）	前期 19.3%、後期 17.9%（農学部）
埼玉県立大学（2023)	後期 42.4%（全学科）

日本体育大学（2023)	前期 29.7%（体育学部）
早稲田大学（2023）	全科目秋期 18.3%
明海大学(2023)	全期 28.8%
横浜商科大学(2023)	秋期 72.0%
湘南医療大学(2023)	後期 50.29%（看護学科 総合教育科目）
武蔵大学（2023）	全学期 43.2%（人文学部)
上智大学（2023）	前期 71.9%
立教大学（2023）	全科目全学期 40.0%
国学院大学（2023）	前期 24.7%、後期 15.7%
名古屋外国語大学（2023）	全科目 28%
名古屋芸術大学（2023)	前期 26.6%
南山大学（2023)	第 3 クォーター42.92%、第 4 クォーター40.67%
名古屋経済大学（2023）	前期 65.32%、（経営学部）
岐阜協立大学（2023）	前期 53.9%（スポーツ経営学科）
大阪大学（2023）	前期 72.9%（人間科学部）
関西学院大学（2023）	全科目 春季 69.3 秋季 56.0%
関西福祉大学（2023)	前期 58.0%（全学科）
神戸親和大学（2023）	前期 43.1%、後期 48.6%
芦屋大学（2023)	全科目前期 56%
福山大学（2023）	全科目 56.1%
熊本学園大学（2023）	全科目 43.1%
九州共立大学（2023）	全科目後期 63%
福岡教育大学（2023)	前期 57.86%、後期 50.68%

付録 2　宮崎国際大学の授業評価アンケートの設問内容

分類		設問
あなたの受講態度について	1	授業に出席するにあたって、予習、復習など必要な準備をしましたか。Did you prepare and review as necessary before attending the class?
	2	機会があれば質問、発言を行うなど積極的な態度で臨みましたか。Did you display a positive attitude by asking questions and making statements if you had the opportunity, etc.?
	3	<u>あなたはこの授業に熱意を持って受講しましたか。Were you enthusiastic about this class?</u>
	4	あなたは、この授業にどれくらい出席しましたか。How many classes did you attend?
授業内容について	5	この授業のシラバスの記述･説明は適切でしたか。Was the syllabus description/ explanation for this course appropriate?
	6	授業内容はシラバスに沿って行われましたか。Did the lesson follow the syllabus?
	7	教材（テキスト、OHP、ビデオ、配付資料等）の利用は効果的でしたか。Was the use of teaching materials (texts, OHP, video, handouts, etc.) effective?
授業の進め方について	8	この授業の進む速さはあなたにとって適切でしたか Did this course progress at a pace appropriate for you?
	9	この授業の学習内容の量はあなたにとって適切でしたか Was the amount of learning in this course appropriate for you?
	10	授業方法は、学生の理解度や到達度に留意し工夫されていましたか Did the instructor make efforts to devise teaching methods taking into consideration students' levels of understanding and achievement?
担当教員について	11	授業に対する教員の熱意・真剣さを感じましたか Did you get a sense of how serious and enthusiastic the instructor was about teaching this course
	12	声の大きさ、話し方、板書は適切でしたか。Were voice volume, speaking style, and style of writing on the board appropriate in this course?
	13	学生の発言や質問をしやすい雰囲気をつくるなど、学生の授業への参加を促す努力をしていましたか。Did the instructor make an effort to encourage students to participate in the class, such as creating an atmosphere in which the students can easily speak and ask questions?
授業の達成状況	14	この授業の内容を充分理解できましたか。Did you fully understand the content of this course?
	15	授業内容に触発され、もっと勉強したいという気持ちになりましたか。Did the content of the course inspire you and motivate you to study more?
	16	<u>この授業で将来に役立つ知識や技能が得られましたか。Did you this class provide you with knowledge and skills that will be useful in the future?</u>
	17	この授業を他の学生にも勧めたいですか。Would you recommend this class to other students?
	18	総合的に判断して、この授業に満足しましたか。Are you satisfied overall with this class?

注）下線部が 2025 年度に変更した設問。

参考文献

1. 石井多恵子（2019） ”WEB 化による授業評価アンケートの変化―データ活用の展望”、城西現代政策研究、第 12 巻、第 1 号, 135－150.
2. 佐藤雄一（2014）“私立大学等改革総合支援事業について”, 大学評価研究、第 13 号. 69-77.
3. 大学基準協会（編）（2023） ”大学評価ハンドブック 申請大学用・評価者用”, p.17.
4. 東京聖栄大学（2024）“令和 6(2024)年度授業評価アンケート”, https://www.tsc-05.ac.jp/pdf_jk/fd/r6_questionnaire.pdf
5. 橋本智也（2015)”授業アンケートを教育改善サイクルに活用する： 回答率を向上させ、学生から建設的な意見を得るための工夫”、情報誌「大学評価と IR」, 4, 3-17.
6. 堀内由樹子(2023)“学生 web 調査の回答率に影響する要因 ―学修行動比較調査のデータによる検討”, 高等教育と学生支援、第 14 号, 9-16.

Substantial internal quality assurance through effective student surveys: IR center activities for 6 years

Hiroshi Watanabe and Masahide Yasuda

The fourth phase of the accreditation system (starting in 2025) places a priority on the substantial internal quality assurance. Internal quality assurance is defined as "a constant and ongoing process within the university in which the university itself is responsible for demonstrating and verifying that its teaching and learning are at an appropriate level by properly implementing the PDCA cycle and other measures." Universities conduct IR (Institutional Research) to demonstrate that education is at an appropriate level in terms of internal quality assurance.

Miyazaki International University established the IR center in 2019 and continues to analyze and report data stored by Office of Academic Affairs and Office of Admissions and PR. It also conducts numerous student surveys as evidence of internal quality assurance.

This paper examines the "student surveys" conducted by the IR center over a six-year period from 2019, and examines how to improve it and actualize internal quality assurance. The average response rate for course evaluation at the university over the five-year period was 79.1%, consistently higher than the national average. In addition, the questions in the course evaluation and the learning and lifestyle survey have recently been revised. The results of these various surveys and analyses, as well as student surveys, are used not only as evidence for internal quality assurance, but also as supporting data for the Comprehensive Support Project for Reform of Private Universities by MEXT, etc.